

ですが、切る御守護というのは病の根を切る。悪いいんねんを切ったりもして下さいませ。そのためには恨みや腹立ちはずっきりと思いい切ってしまう。ついでに、八つのほこりも思いい切ってしまうと結構に命をつないで頂き、夫婦兄弟や仕事といったことも結構につないで下さるのです。ちよつと喧嘩をして、もう縁を切つてやるというのとは一番よくないのであります。また、親と子の胎縁が切れるから、子どもは一人の人間として育つていきますし、思いきり心を切り替えるからこそ次の運命が開けてくるのであります。

次は、をふとのべのみこと様であります。おふとのべのみこと様は、子どもが生まれる時に親の体内から子を引出す世話など、すべてを引き出す守護の理をして下さいませ。子どもの背が伸びることや稲の穂が伸びる、子豚や子牛が親豚親牛になるなど、すべてこの働きになります。この御守護によって人間の食べ物全部出来てくるので、農産、畜産、水産などすべて、をふとのべのみこと様が働いて下さっているのです。また、知恵や才能が引き出されるからこそ、化学や技術が発達して、現在のような大変豊かな生活が出来る訳であります。

そして、いざなぎ、いざなみのみこと様は、男雛型種、女雛型苗代の理の働きをして下さるのです。親神様は、今話したように、常に十全の御守護の働きを下さっているのです。そしてこの十全の御守護の働きは、人間が作られた時にだけ働いて下さっているのではなく、親神様が今現在も、毎日毎日24時間、365日働いて下さっているのであります。

我々はこの働きに対してどれくらいお礼を口にしていくでしょうか。どれくらい御恩返しをしているでしょうか。我々人間は、返しても返しても、返しようのないくらい、親神様より恩を受けています。ですから、神さんの信心は、な、神さんを生んでくれた親と同じように思いなはれや。そうしたらホンマの信心が出来ます。と、教祖が教えて下さったように、親父やお袋にお礼

するような気持ちで、心の底から日々ありがたい、結構結構と言葉に出し、暮らすことが親を喜ばす一つの親孝行になるのです。また、座りづとめをする際は、「あしきをはろうてたすけたまえ」を1回目は、「くにとこたちのみこと様ありがとうございませう。」2回目は「おもたりのみこと様ありがとうございませう」と順番に十柱の神名を頭に浮かべ、11回目には、「くにとこたちのみこと様」よりはじめ、最後の21回で、「なむてんりおうのみこと様、十全の御守護をありがとうございませう」と

日々の御守護のお礼をする、普段のおつとめよりさらにありがたみを感じ、このお礼の真心をお受け取り下さり、先程いった身上事情の御守護を頂く理を頂戴することが出来るのです。この親神様の働きを感じられるか、感じられずに日々を過ごすか、大きく人生が変わってきます。お道を信仰する者にとつて、一番肝心な急所になります。不思議なお助けを頂くためには、このこと

をしつかり心に治めることが肝心になります。恩を感じられない人は恩返しができないのであります。恩返しこそ、我々信仰するものが真つ先にすることなのであります。おふでさきに

それでは最後になりますが、親神様は我々に何を求めておられるのか、教祖は何を求めておられるのか、それは元の理の話自体もそうですが、お話の中に成人という言葉が7回も出てくるように、親神様は心の成人を求めておられるのです。教祖は何を求めておられるか、教祖は50年のひながたを通し、つとめとさづけの実行を求めておられるのです。我々は、心の成人をしなればなりません。網走の五代会長は、大教会

初代会長でありました。初代というのはこの教会を見ておりまして、かなりの力で引つ張っていかないとすべてが成り立つてこないのが初代ではないでしょうか。私も五代会長のもとで10数年経験させてもらいましたが、五代会長の時は1から10まですべて仕込んで下さいました。今思い返しますと、1から10まで言ってくれるということは、1から10まで責任を取つてくれることでもあります。我々付いてくるものは、ある意味非常に楽な面があったように思うのであります。

大教会になりましたから、初代、二代、私で三代と、代を重ねる道中に、親神様の求める心の成人をする上から、事情をお見せ頂き、現在は理事、役員、準役員という立場も出来上がりました。そしてここには、各教会の会長、委員長、また網走に繋がるよふぼく信者や、道に繋がるよふぼくがこうして参集しているのではありません。我々はいつまでも親神様のスネをかじっているわけにはいかない